



TITLE:

# [12月23日 オープニング・セッション 情報処理の現在] 報告3: 災害リスク軽減に関する情報の普及

AUTHOR(S):

マルワン ヌスフ イリヤス

---

CITATION:

マルワン ヌスフ イリヤス, [12月23日 オープニング・セッション 情報処理の現在] 報告3: 災害リスク軽減に関する情報の普及. CIAS discussion paper No.25: 災害遺産と創造的復興: 地域情報学の知見を活用して 2012, 25: 94-95

ISSUE DATE:

2012-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/228508>

RIGHT:

© Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University

# 災害リスク軽減に関する情報の普及

マルワン・ヌスフ・イリヤス アチェ州運輸通信情報局

Marwan Nusuf Ilyas

(Dinas Perhubungan, Komunikasi, Informasi dan Telematika)



本来でしたら局長のイルワンディが来る場所ですが、所用により来られませんので、代わって私が報告させていただきます。

私は先日、情報技術に関するワークショップに参加してきましたが、そこでもアチェの試みが非常に注目を集めていると感じました。

災害対応に関して重要なポイントはいくつかあります。1つ目は防災——起こる前に防ぐこと、2つ目は人びとのあいだでの準備、3つ目は減災——災害の被害を小さくすること、そして4つ目は復興・再建です。本日は、この4つの話のうち復興・再建以外の部分についてお話ししたいと思います。

## ■ 減災に向けて 充分かつ適切な知識と経験を多くの人に

災害対応のために私たちはなにをすべきでしょうか。災害リスクを小さくするには、人びとの知識や経験が重要です。充分かつ適切な知識があれば災害のリスクを小さくすることができます。災害リスクの軽減にあたって、私たちはUNDPをはじめとするさまざまな機関と協力しています。私たちはこれらの連携を円滑にするためにフォーラムをつくって運営しています。このフォーラムにはさまざまな援助機関、政府、メディア、NGOが参加しており、住民意識の向上などに

ついて考えています。

私たちが重視しているのは、災害リスク軽減に必要な情報を一般の人びとに広くゆきわたらせることです。技術研修やワークショップなどのほかに、テレビのトークショーやラジオ番組、新聞なども活用しています。何が人びとに向けて発信されているかお話しします。これまでに12の県と市でイベントを行ない、エンターテインメントも含めたかたちで災害リスクを軽減するための情報を伝えています。

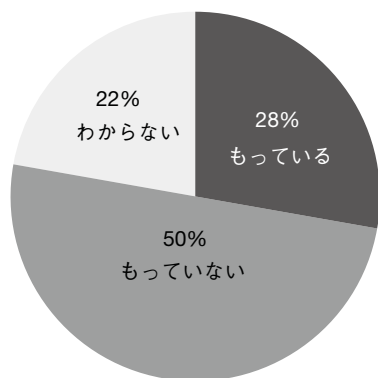
## ■ 災害に関する意識の実態と 向上に向けた取り組み

では、アチェの人びとは実際にどの程度この事柄について知っているでしょうか。地震、洪水、地滑り、大水、干ばつなどたくさんの災害があるアチェで、人びとは十分に準備ができているでしょうか。以下の資料は、2010年に行なったサーベイの結果です。

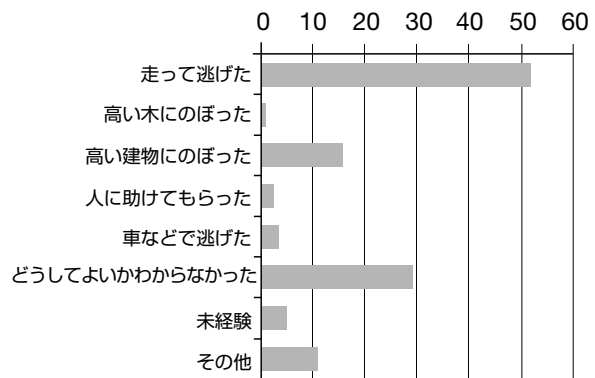
資料11-1は、災害についての知識を尋ねたものです。黒がもっている人、濃いグレーがもっていない人、薄いグレーがわからないという人です。

資料11-2は津波のときに人びとがどのように行動したかを示した図です。いちばん上が「走って逃げる」という人です。

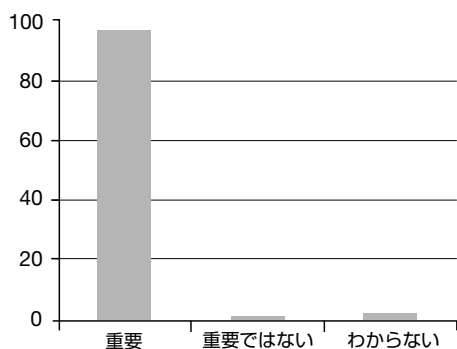
資料11-3は、防災に女性の関与が重要と考える人の



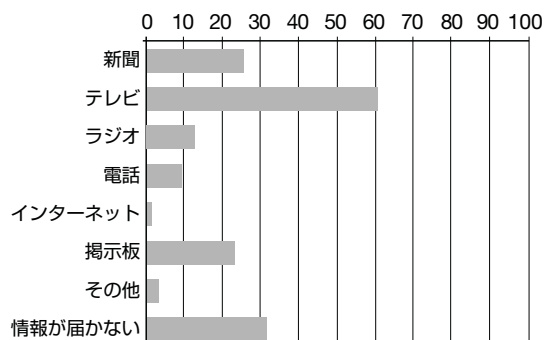
資料11-1 災害についての知識をもっているか



資料11-2 津波のときどのように行動したか



資料11-3 防災において女性の関与は重要か



資料11-4 日常的な情報収集の手段



資料11-5 フォーラムのようす



資料11-6 防災コンテストのようす

割合についての調査で、いちばん左が重要だと考える人です。

資料11-4は、住民が日常的にどのメディアで情報を収集しているかという調査で、いちばん多いのが新聞です。

資料11-5は先ほど紹介した、住民に防災に関する知識などを普及させて災害リスクを軽減する試みをしているフォーラムの活動のようすを簡単に紹介したものです。

ほかに、インドネシア共和国の国営テレビで防災についてのトークショーをしたり、アチェ語を使ったテレビ番組を制作したりしています。アチェにあるさまざまな地方紙でも広報活動を行なっています。

資料11-6はコンテストのようすです。防災に関する知識をどのように伝えるか、このように歌や踊りや人形などを使って、やり方を競って、いろいろな情報を伝えています。

私たちは住民への情報の普及にあたって宗教指導

者と女性組織の役割を重視しています。宗教指導者に関しては、金曜日のモスクでの集団礼拝で行なわれる説法の際に防災のことを入れてもらおうという期待からです。女性に対しても同様に、女性たち自身がつくっているさまざまな組織を通じて人びとに防災の知識が広まればと考えています。

私たちは津波被災7周年を迎えるにあたって、インドネシアじゅうから人を集めて災害リスク軽減のためのワークショップをしました。そこでは関連する映画作品なども見せました。災害リスク軽減のための技法を競うコンテストの勝者が実際に演じているところをビデオにおさめて、VCDに焼いて配れるようにしています。関心のある方はあとでご覧ください。

以上で私の報告は終わりです。住民への情報の普及にあたっては、決して外国からの支援に頼るだけでなく、私たち自身がまず真剣に取り組まなければいけないということを覚えておいてください。